

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520131

研究課題名（和文） 寛文期から元禄期にかけての名所資料に関する基礎的研究

研究課題名（英文） Basic research of material that relates to showplace written in year of the Genroku era from the Kanbun era

研究代表者 綿抜 豊昭 (WATANUKI TOYOAKI)

筑波大学・大学院図書館情報メディア研究科・教授

研究者番号：30211676

研究代表者の専門分野：図書館情報学
科研費の分科・細目：情報学・人文社会
キーワード：名所、歌枕、近世文学

1. 研究計画の概要

第一に、近世初期にあたる寛文期から元禄期にかけて出版された地誌類を網羅研究していく。第二に、その調査によって得られた成果をもとに、近世初期に成立した大部の地誌の一つである『和歌名所追考』の位置づけを考察する。第三に、近世文学を代表する松尾芭蕉との関連を視野にいれて、俳諧の名所、和歌の名所、あるいは当時の俳諧観や和歌観を考察する。

2. 研究の進捗状況

研究方法は、まず基礎的研究として、第一に先行研究の調査し、第二に関連資料の所在の調査し、第三に関連資料の調査をする。最後に、以上の調査結果の分析・考察し研究をまとめる、という文献・資料調査・分析を核とする方法である。

まず先行研究の調査として、名所に関する先行研究を調査し、毎年度、打ち合わせのさいに新たな研究論文が発表されていないかを調査し、代表者、分担者がお互いに確認する作業をした。また国文学研究資料館が収集した文献情報等を調査した。

先行研究や、『国書総目録』及び『古典籍総合目録』や、それ以外の目録類にとりあげられたものを調査し、国文学研究資料館のデータベースで検索して、寛文期から元禄期にかけて出版された地誌類にどのようなものがあるかを明らかにした。

原則として、原本にあたるものはそれを調査することとしているため、宮城県図書館や仙台市博物館など、関連資料等を所蔵している機関を訪れ、それらを調査している。主に西方面を分担者が、東方面を代表者が調査

している。

また当時の名所に関する資料のなかでも、ほぼ全国的に記されており、その多くを編者が実際に訪れているという点で、最も注目すべきもののひとつと考えられる『和歌名所追考』についても調査をすすめている。それにとりあげられた引用書目の整理をすすめている。またとりあげられた名所の整理を、アルバイトを雇ってすすめている。さらに陸奥地方の翻刻を、代表者・分担者がすすめている。その成果として、分担者に「和歌名所追考引書目録その一」があり、代表者に「和歌名所追考 秋田山本郡」がある。平成22年度中にも、引き続き同様のものを発表する予定である。

また『和歌名所追考』の編者とはほぼ同時期に、松尾芭蕉は、いわゆる『奥の細道』の旅で各地の名所を訪れている。『和歌名所追考』とのかかわりにおいて注目される松尾芭蕉との関連で、加賀地方とのかかわりの調査・研究をすすめた。その関連成果として、代表者に『山中温泉の俳諧』と『松尾芭蕉とその門流』の二冊の著書がある。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

無理な計画をせず、代表者、分担者ともに粛々と調査等をすすめていった結果、予定したデータの収集もすすんでおり、特に問題が生じることなく順調に進展しているといえる。

4. 今後の研究の推進方策

これまでのように、調査等を継続的にすすめていき、分析・考察をし、研究をまとめ、

報告する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- ① 岡本聡、和歌名所追考引書目録その一、人文資料研究、査読無、3、2010、21-22
- ② 綿拔豊昭、和歌名所追考 秋田山本郡、人文資料研究、査読無、1、2008、22-26

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計2件)

- ① 綿拔豊昭、芭蕉の館、山中温泉の俳諧、2010、32
- ② 綿拔豊昭、筑波大学出版会、松尾芭蕉とその門流、2008、204